

意見交換内容

報酬について

稼働時間が区長よりも少ない。自身の知っている議員はそんな風には見えないので、一部の議員にはもうちょっと頑張っていたいただいてもいいのでは。

出張費や消耗品費などの経費は町が負担すべき。他の町では政務活動費を支給されているところもあるが分析されたか。

区長さんをお願いごとをする方は居ても、議員に頼る方は少ない。もっと議員を頼っていただければ、稼働時間もさらに変わってくると思うので、ぜひ議員を利用してほしい。

政務活動費については検討課題に挙がり、他市町の調査・比較も行ったが、今回はあくまで報酬に絞った提案にして、次の選挙で新たに議員になった方々で検討してもらおうという結論になった。

意見交換内容

報酬について

稼働時間が2.163時間/日とあって驚いた。自身の地元議員をみる限り、こんなものではないはず。この数字なら報酬を上げなくてもいいと思ってしまう。また、報酬アップが行政サービス提供に影響しないのかも明示してもらえるといい。

稼働時間の調査条件として、「移動時間は含まない」「お酒を伴う会合は含まない」「会議前に到着して準備しても、会議時間のみをカウントする」と決めていた。また、個人の議会広報を各戸へ歩いて配布する議員もいれば、フェイスブックなどで情報発信する議員もあり、その手法でかかる時間も変わる。その辺をトータルして平均化した結果ということを理解いただきたい。

財政については、定数16人の頃は議員報酬が町の予算の1%程度を占めていたが、現在は1%にも満たず、今回上げても当時の比率まではいかず、影響はない。

意見交換内容

報酬について

職務のための移動時間は（稼働時間の調査に）含めて良いのでは。

町の各種審議会の報酬も以前削減されてから変わっていない。町長や議員の報酬だけでなく、そのあたりも働きかけて欲しい。

今回、初めての調査であり、個人ごとに判断が異なるようにする必要があった。そのため、統一したラインを設けており、最低限の時間を出している。

例えば監査員報酬も県内ではかなり低い方。これも含めて今回議論した。農業委員会や各審議会の報酬含め、議員が一つ一つ提案していかなければならない問題等もあると思う。今日の意見を踏まえて、トータル的に議会で審議・協議して、全体的なアップについても考えたい。

意見交換内容

定数について

委員会数を減らし、議員定数を減らす。その分を報酬に充て、生計を維持できる報酬水準にしてはどうか。また、4年ごとに物価スライドを参考に見直しをするなどの規定も入れては。

議員が1人減ると、その分執行部への発信力が削られることが懸念される。町民の声が届かなくなる可能性を考えると、これ以上減らせないということになった。

また、定数が12人になると、地方自治法上は1人でも条例改正や提言が可能になる。現在の13人だと2人以上の賛同を得なければ出来ないようになっているため、一人の議員の意志のみで議会を混乱させることを防止することができる。

意見交換内容

定数について

もともと議員報酬は副業ありきの制度と思っている。3万円アップはいいが、固定費（報酬×議員人数）は現在からオーバーしてはならないと考える。固定費を上げてまで報酬見直しをするのかを含めて考えて欲しい。

確かに、原資あつての配分だが、以前定数を16人から13人に下げた際、その3人分を報酬に反映したかと言えはしていない。これが反映されれば6万円アップということになる。今回はそういうやり方ではなく、純粹に我々の稼働時間を基に積算しており、それが町民の理解を得られる方法と考えた。

意見交換内容

定数について

報酬面が立候補のネックになっているなら上げてもいいと思うが、それでも立候補者が足らなければ将来的には人数削減も考えるべき。より魅力的に活動して、なりたいと思う人を増やしてほしい。

基山町は議員1人当たりの人口が県平均より多い。議員が一人減れば、他の議員がその分を負うことにもなり、町内の様々な意見を反映させにくくなる。老若男女の声を届け、税金の使途をチェックする目が減らないように議員の数は大切と考える。

意見交換内容

若いなり手
について

議員一筋で町を盛り上げるような若い議員も欲しいが、24~25万の報酬では現在の仕事を辞めてまで立候補しないと思う。

例えば4人家族で十分に生計が成り立つ報酬水準がどのくらいか、なども念頭に考えて欲しい。

以前は子育て世代と年金世代に報酬額の差をつける議論があっが、同じ仕事をしているのに差をつけるのはどうかという点で現在はあまり議論されない。

(子育て中の議員)

議員になってみて、国民健康保険の額の大きさや選挙費用に苦心し、子どものための貯金を切り崩すこともあった。議員には退職金もなく、選挙のたびに負担が発生するので、報酬の額面が10万上がったとしても、なかなか子育てしながら生活できるところにたどり着くのは非常に厳しい。自分もすごく葛藤しながら議員をさせていただいている。

意見交換内容

若いなり手
について

若い方が、現在の職を辞めてまで、当選するか分からない選挙に出るにはよっぽど報酬を上げないといけない。なので、他の方法を模索すべき。

例えば、会議を夜間に行う、インターンシップを取り入れるなどして、議員が何を行っているのか分からないのを改善すべき。立候補するなら仕事の内容や拘束時間は知りたいと思う。

他にも、町内企業にお願いして、兼業での立候補や議員活動を有休扱いにしてもらえないかなど、働いている方が立候補しやすくなる工夫も報酬アップと一緒に検討していくべき。

確かに、議員の活動が見えづらい現状はある。議員一人一人が自身の地元以外にも、くまなく回って、弱い立場にある人の声を聴く必要がある。われわれの活動をもっと知っていただく必要があると反省した。

介護や子育て、障がいなど、当事者になって経験しないと分からないことは多い。なので、様々な方が議会にいてのが理想と思う。提案されたような、働きながら議員が出来る体制がとれれば、さらに良くなると考える。

意見交換内容

若いなり手
について

もっと議会を知ってほしいなら、若い人へのPRが足りていない。3万円上げても若手が立候補するとは思えない。もっと若い人の声を聴いて金額を考えて欲しい。

「子育て世代」に報酬の差を設ける議論は、これまでもいろんな案が出たが、有識者には、同一労働に報酬の差をつけると、監査で問題になったり、裁判になれば負ける可能性があると言われた。

実際に導入した自治体の例では、それでも議員のなり手はなかった。今回の手法をやってみて、それでもなり手が少なければ、また違う方法で報酬や定数について考えていかなければならない。

町政へのチェック機能という点が気になる。執行部の提案で「これは」というものを議会を止めたなど、目に見えるチェック機能の実績アピールが不足して議会への関心が薄まっているのでは。

また、無投票当選も関心が薄まる理由と思う。

チェック機能が一番大事な仕事であることは、13人全員が重々承知している。議会の一般質問以外、議案審議や委員会では若い議員を中心にはっきりと物を申している。そのあたりのアピールが足らなかったかなと思う。議案審議や委員会も傍聴可能なのでぜひご覧いただきたい。R8年度からは本会議のライブ配信なども始まるので、傍聴しやすい環境に対応していく。